

基本目標 8

郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承

施策 33 文化財の保護・活用

現状・課題

- 文化財は、歴史や文化、先祖の暮らしなどを今に伝える貴重な遺産です。文化財の範囲は幅広く、種類や保存方法等も様々ですが、市民がその価値をしっかりと認識し、適切な方法で継承していくことが大切です。
- 本市では、豊かな歴史や伝統を背景に、様々な国、県、市指定の文化財を有しています。このほか、田縣神社、間々観音など特色のある寺社が立地しています。
- 本市では、小牧市文化財保護条例に基づき教育委員会に「小牧市文化財保護審議会」を設置し、小牧市の文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査・審議を行っています。
- 文化財の保護や保存、伝承活動については、市内の文化財所有者等に対して必要な助成を行っています。

具体的な取組

取組	内容	担当課
埋蔵文化財の調査・記録 保存	埋蔵文化財の貴重な情報を得るため、周知の埋蔵文化財包蔵地内で開発がある場合は、適正な調査・記録保存を行います。	生涯学習課
文化財の指定・保護	文化財保護審議会において、文化財の調査を行い、保護を進めます。	生涯学習課
文化財の案内機能の充実	文化財のPRや活用を進めるため、文化財マップや現地に案内看板を設置するなど、周辺環境の整備を進めます。	生涯学習課



田縣神社豊年祭の御輿行列（お練り）



文化財パンフレット

施策 34 歴史・文化財・生活文化についての啓発・活用

現状・課題

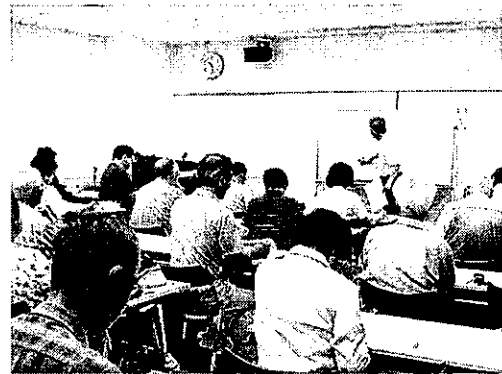
- 本市では、歴史・文化財等に関する市民向けの各種講座を開催することにより、市民の歴史に関する興味・関心を高める取組を進めています。
- 古文書講座や歴史講座の受講者は高齢者が多く、また受講者が固定化されている傾向がみられます。市内の文化財に対する意識啓発を図るため、若い世代や中高生、小学生、親子を対象にした講座の開催についても検討する必要があります。

具体的な取組

取組	内容	担当課
古文書や古地図等の調査実施	大学など専門機関の技術やノウハウを活用し、古文書や古地図等に関する調査をします。	生涯学習課
古文書・歴史に関する講座等の開催	古文書や歴史に関する講座等を開催します。幅広い世代が興味を持てるよう、内容の充実に努めます。	生涯学習課



文化財巡り



古文書講座

施策 35 小牧山※の整備・活用

現状・課題

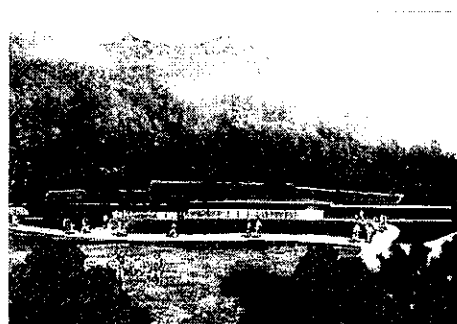
- 小牧山※は中心市街地の西に位置する国指定史跡で、市民からはお花見やハイキングなどの憩いの場として親しまれています。また、戦国時代に織田信長が居城を築いたことや、小牧・長久手の合戦の主陣地となるなど、歴史的にも価値がある場所となっています。
- 市では小牧山主郭地区等で発掘調査を行っており、調査の成果により、徐々に小牧山城の姿が明らかになっており、「近世城郭のルーツ」として、歴史的価値がさらに高まっています。発掘調査の結果は、「はっくつかわら版」の発行や、市ホームページ、SNS※、現地説明会等を通じ、積極的に市内外に発信しています。
- 小牧山※を貴重な歴史遺産として調査・保護・活用・情報発信するとともに、より魅力ある場として整備していくことが必要です。
- 本市では、平成 30 年度の完成を目指し、小牧山※の歴史や城郭、自然、発掘調査に関する情報等について学ぶことができる「(仮称) 史跡センター」の整備を進めています。

具体的な取組

取組	内容	担当課
主郭地区整備基本計画の推進	史跡小牧山主郭地区整備基本計画に基づき、石垣の一部復元などの整備を進めます。	小牧山課
資料の展示や体験・講座による啓発	歴史館や(仮称)史跡センターでの展示や文化財に関する体験や講座の開催により、市内外の来館者に対し、小牧山城の歴史的価値や魅力についての情報を広く発信します。	生涯学習課 小牧山課



小牧山主郭地区発掘調査



(仮称) 史跡センター (イメージ)

施策 36 地域資源を生かしたふるさと学習の推進

現状・課題

○子どもたちが身近な地域の歴史や文化、自然などにふれ、学ぶことは、小牧市に誇りや愛着を持つことにつながります。本市ではアンケート調査等の結果から、市民の継続居住意向が低く、その背景として市に対する愛着・誇りが低いという課題があることがわかりました。このため、市民が小牧市への愛着・誇りを高めることができるよう、“小牧山※”と“子育てしやすいまち”の2つを軸としたシティプロモーションを推進しています。

○各学校では、それぞれ総合的な学習の時間等を活用し、地域と連携したふるさと学習を推進しています。また、市内の小中学校の社会科教諭を中心に構成された「小牧市文化財資料研究会」に企画・運営を委託し、子ども向けの文化財啓発イベント等の事業を実施しています。

○歴史等に関するイベントは、その参加者の多くが高齢者となっているため、若い世代にも興味・関心を持ってもらえるような、子ども向けイベント等の企画・実施を進めていく必要があります。

具体的な取組

取組	内容	担当課
郷土教育・ふるさと教育の推進	総合的な学習の時間等を活用し、地域の歴史や特徴等に関する学習を行います。また、地域人材を外部講師として招くなど、地域と密接につながった授業の展開を行います。さらに、地域の特色ある職業を体験し学ぶ職業人体験学習を実施します。	学校教育課
文化財啓発イベントの開催	小中学生を対象に、小牧の文化財を紹介するとともに、実際に見て回ったり、小牧の歴史や文化をテーマとした検定を行ったりする等、郷土への誇りや愛着を高めます。	生涯学習課



文化財愛護のつどい



こまぎ検定

施策 37 市民との協働による歴史・文化の継承活動の展開

現状・課題

○地域の歴史・文化に根ざした祭りや民俗芸能などは、人々の手によって守り伝えられてきたものであり、次世代への継承にあたっては、伝承者の確保が欠かせません。しかし、全国的にも担い手の高齢化等によって、存続の危機や規模縮小を余儀なくされる例が見られます。

○本市には、地域に支えられてきた山車や棒の手などの民俗文化財があります。このほか、木遣り、和太鼓などの民俗芸能を継承する団体も活動しています。しかし、本市においても全国の動向と同様に、会員の高齢化や会の解散などによる担い手の不足が課題となっています。

○本市の歴史・文化の保護・継承活動にあたって、歴史館において歴史ガイドボランティア*が解説等の活動をしています。今後も、連携しながら郷土の歴史を市民に伝える活動を進めていく必要があります。

具体的な取組

取組	内容	担当課
地域の伝統文化・伝統芸能の継承・保存	伝統文化・伝統芸能の担い手の増加に向けて、パンフレットや書籍などで地域の伝統をPRしていきます。また、指定文化財の保存・継承・公開事業を支援します。	生涯学習課
歴史ガイドボランティア*と連携した展示品・文化財の解説	歴史館や（仮称）史跡センター、各種イベントなどにおいて、歴史ガイドボランティア*による文化財や展示品等の解説を行います。	生涯学習課 小牧山課



秋祭祭の山車

第 3 章 計画の推進体制

(1) 計画推進にあたっての体制

①計画の周知と各種情報の収集・発信

計画の着実な推進を図るため、教育大綱に掲げた基本理念や基本目標などが教育関係者や保護者をはじめ市民に幅広く理解されるよう、広報紙やパンフレット、ホームページなど、多様な媒体を活用しながら、内容の周知に努めます。

また、本計画に位置づけた各種施策の実施にあたっては、市民や関係機関・各種団体との協働による取組が必要であるため、学校教育・社会教育に関する各種施策について、迅速かつ的確な情報の収集を図り、市民意見やニーズの把握と施策や事業への反映に努めます。

②関係機関等との協働による推進体制

本計画に位置づけた施策・取組を総合的に推進していくため、教育委員会内での情報共有を図るとともに、関連する市役所内関係各課との緊密な連携を図ります。

また、教育委員会が総合的な調整を図りながら、家庭・地域・学校の役割を明確にするとともに、教育関係機関、各種団体、ボランティア※・NPOなど、各分野における多様な主体との協働により、地域全体で教育に取り組む環境づくりを進め、計画を推進します。

③変化する社会情勢や新たな課題等への対応

急速に変化する社会情勢により、教育において対応すべき課題もめまぐるしく変化しています。このため、計画期間中においても、必要に応じて適宜新たな課題に適切に対応できるよう、施策・取組の検討を進め、迅速な対応を図ります。

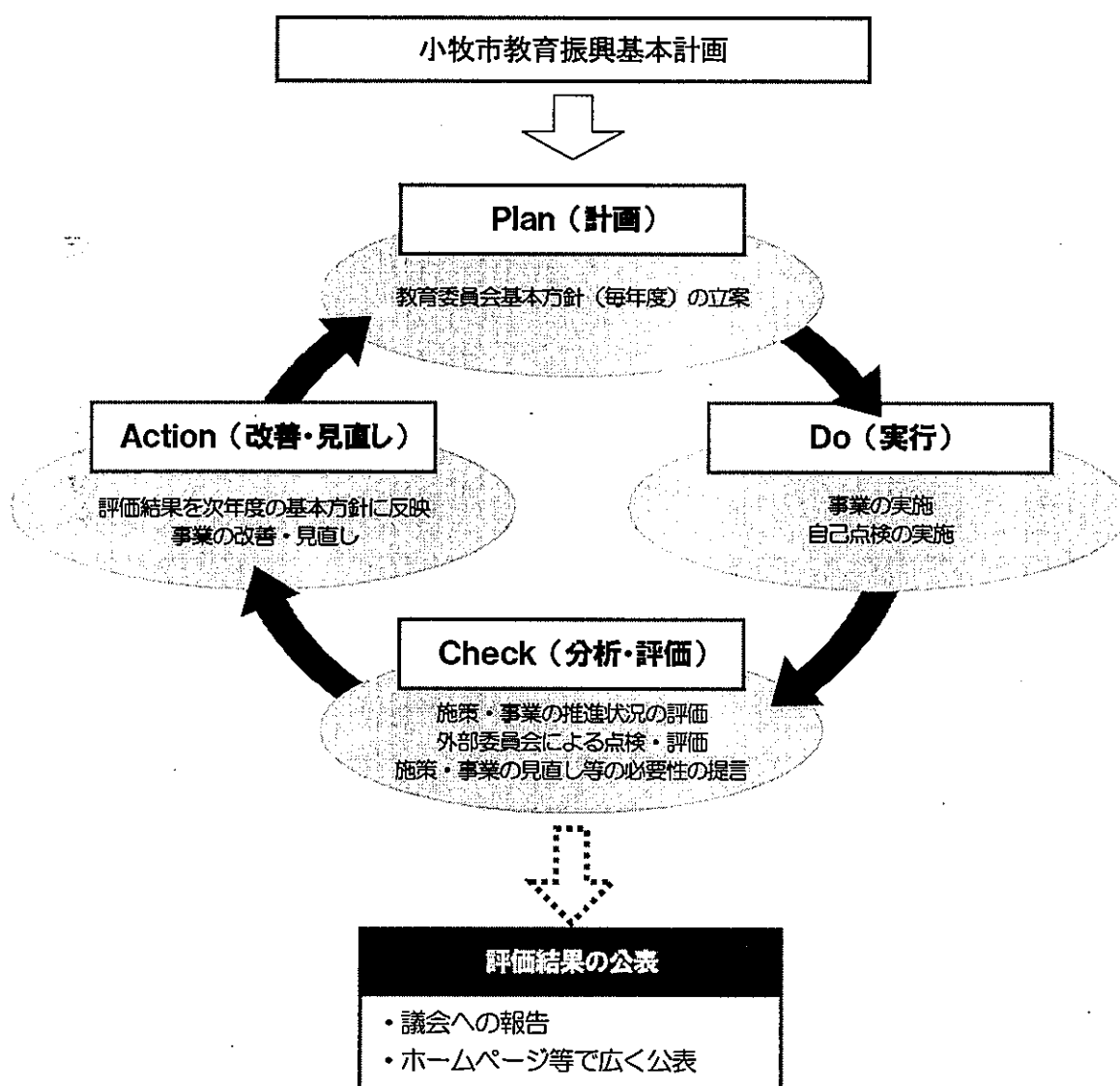
また、変化する社会情勢等に適切に対応するため、本計画は策定から5年後を目途に見直しを行います。その際には、アンケート等による市民意見の把握に努め、計画の進捗状況を踏まえた上で、改訂計画を策定します。

(2) 計画の評価・検証体制

①PDCAサイクルによる推進

本計画の施策・事業は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき毎年度実施している、「教育に関する事務執行状況の点検・評価」により実施状況を点検・評価していきます。

毎年度、担当課が推進状況や課題等を整理して自己評価を行い、その結果を教育委員会事務局が取りまとめ、外部委員会において推進状況の確認・評価を行います。そしてその結果を議会に報告し、広く市民や保護者等に公表するとともに、必要に応じて改善を図り、次年度以降の施策・事業の展開に反映させながら、より良い教育行政の推進に努めます。



②評価指標の考え方

本市の最上位計画である「第6次小牧市総合計画新基本計画」（計画期間：平成26年度～平成30年度）では、取組の達成状況を定量的に測定するための指標を設定しています。「教育・子育て」「文化・スポーツ」等の、本計画に関連する分野についても複数の指標が設定されているため、これらの指標を合わせて参考とします。

指標は、本計画の施策・取組の総合的な成果を測定するものとして位置づけ、取組の進捗状況と合わせて定期的に確認していくことで、その結果を市政の継続的な改善・向上（スパイラル・アップ）に生かします。

また、指標については、外部委員会を中心に、施策目的に対する取組の状況を評価・分析する中でその有効性を確認し、必要に応じて見直しを行っていきます。

基本目標1 時代を切り拓く力を育む「学び」の充実

指標名	基準値	目指す方向性
こどもが学校へ元気に通い、学校で楽しく過ごしていると思う保護者の割合	92.7% (H24年度)	↗
学校が楽しいと思うこどもの割合	89.9%	↗
児童の授業理解度（小学国語）	81.9% (H24年度)	↗
児童の授業理解度（小学算数）	82.7% (H24年度)	↗
生徒の授業理解度（中学国語）	74.0% (H24年度)	↗
生徒の授業理解度（中学数学）	69.5% (H24年度)	↗
都市間交流事業参加児童の保護者で「交流により、こどもが成長した」と回答した割合	—	↗

基本目標2 認め合い高め合う豊かな心と、健やかな体の育成

指標名	基準値	目指す方向性
こどもが学校へ元気に通い、学校で楽しく過ごしていると思う保護者の割合	92.7% (H24年度)	↗
学校が楽しいと思うこどもの割合	89.9%	↗
市内小中学校における不登校者のうち、登校できるようになった者および、良い変化があった者の割合	46.2%	↗
おはなし会などの参加人数	7,375人	↗
給食が楽しみと思うこどもの割合	84.3%	↗
学校給食で地元農産物を使った日数の割合	15.1%	↗

基本目標3 未来につなげる、安全で充実した教育環境づくり

指標名	基準値	目指す方向性
こどもが学校へ元気に通い、学校で楽しく過ごしていると思う保護者の割合	92.7% (H24年度)	↗
これからも小牧で育っていききたいと思うこどもの割合	79.1%	↗
学校が楽しいと思うこどもの割合	89.9%	↗
通学路の安全対策実施率	20.3%	↗

基本目標4 家庭・地域・学校との連携による教育の推進

指標名	基準値	目指す方向性
青少年の補導人数	2,152人 (H25年)	↘
中学生の地域活動への参加率	36.2%	↗

基本目標5 豊かな人生を支える、生涯学べるまちづくり

指標名	基準値	目指す方向性
生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合	15.7%	↗
生涯学習活動による成果を地域社会に活かしている市民の割合	40.2%	↗
市民の図書館に対する満足度	55.4%	↗
市民講座が開かれていることを知っている市民の割合	78.3%	↗
市民講座受講者数	1,947人	↗
市民講座を受講して、社会貢献活動をしてみたいと思った市民の割合	—	↗
こまなびサロン*を知っている市民の割合	24.5%	↗
生涯学習に関する相談件数	152件	↗
社会活動の支援や指導に関わってみたいと思う市民の割合	36.1%	↗
市民1人あたりの図書などの年間貸出冊数	7冊	↗
1年以内に図書館を訪れたことがある市民の割合	36.1%	↗
男女の区別なく活動できていると思う市民の割合	58.4%	↗
子育て・介護と仕事の両立のための支援が充実していると思う市民の割合	46.4%	↗
男女共同参画という言葉の意味を知っている市民の割合	45.8%	↗
男女共同参画をテーマとした各種講座・講演の参加者数	4,471人	↗
審議会等附属機関への女性の登用率	28.1%	↗
ウィメンズネットこまきの加入団体数	14団体 (H25年度)	↗
女性相談の窓口を知っている女性の割合	52.1%	↗
女性相談でDV相談が受けられると知っている女性の割合	69.7%	↗

基本目標6 誰もが参加できるスポーツ活動の展開

指標名	基準値	目指す方向性
市民（成人）の週1回以上のスポーツ（運動）実施率	37.6%	↗
体育施設の年間利用者数	1,518,827人	↗
各種スポーツ教室・講座参加者満足度	—	↗
市民スポーツ大会などへの参加者数	17,121人	↗
各種スポーツ教室・講座への参加者数	2,995人	↗
スポーツ振興会*を知っている市民の割合	63.1%	↗
スポーツ指導者の養成講座・講習会の参加者数	112人	↗
公共のスポーツ施設の利用者満足度（スポーツ公園運動施設）	88.9% (H24年度)	↗
公共のスポーツ施設の利用者満足度（南スポーツセンター）	75.0% (H24年度)	↗
公共のスポーツ施設の利用者満足度（温水プール）	—	↗

基本目標7 市民がともにつくる文化・芸術の振興

指標名	基準値	目指す方向性
日頃から文化芸術に親しんでいる市民の割合	49.9%	↗
市主催の文化芸術イベントへの来場者数	32,331人	↗
来場者の満足度	96.2% (H24年度)	↗
支援を行った文化芸術団体の事業参加者数	35,804人	↗
子どもまたは親子で参加する文化体験教室などの参加者数	300人	↗

基本目標8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承

指標名	基準値	目指す方向性
小牧の歴史・文化に興味・関心を持っている市民の割合	63.1%	↗
指定文化財の数	40件	↗
小牧市のシンボルが小牧山*と思う市民の割合	87.5%	↗
歴史・文化講座の参加者数	3,226人 (H25年度)	↗

③他計画との関係

「第3次小牧市生涯学習推進計画（計画期間：平成25年度～31年度）」「小牧市スポーツ振興計画（計画期間：平成22年度～31年度）」「第2次小牧市文化振興ビジョン（計画期間：平成28年度～32年度）」は、それぞれの計画期間満了とともに、本計画に統合されます。統合までの期間は管理が重複するため、平成29年度以降は、各計画の推進や評価を行う会議等に意見を求めながら、本計画の進捗管理体制に基づき施策・事業を推進します。

各計画の推進・評価組織

計画の区分	意見を求める会議等
生涯学習推進計画 文化振興ビジョン	生涯学習審議会
スポーツ振興計画	スポーツ推進審議会

